

量子力学3 量子力学 GII, 演習問題(4) 電磁場の量子化 (コヒーレント状態)
(担当: 加藤雄介) 2015.10.20

記号の詳細は講義ノートを参照のこと。

目的

- コヒーレント状態の基本的性質を理解すること。
- コヒーレント状態に関する基本的な計算技術を習得すること。

問題 IV - 01 「Campbell-Baker-Hausdorff の公式の導出」

\hat{A} , \hat{B} は演算子で、それらの交換子 $[\hat{A}, \hat{B}]$ は c-数であるとき、

$$e^{\hat{A}+\hat{B}} = e^{\hat{A}}e^{\hat{B}}e^{-\frac{1}{2}[\hat{A},\hat{B}]} \quad (1)$$

が成り立つことを示せ。

問題 IV - 02 「CBH 公式の応用」

パラメータ t に依存する演算子 $\hat{A}(t)$ の交換子 $[\hat{A}(t), \hat{A}(t')]$ が c-数であるとき

1.

$$\frac{d}{dt}e^{\hat{A}(t)} = \left(\frac{d\hat{A}(t)}{dt} + \gamma_A(t) \right) e^{\hat{A}(t)}, \quad \gamma_A(t) = \frac{1}{2} \left[\frac{d\hat{A}(t)}{dt}, \hat{A}(t) \right] \quad (2)$$

を示せ。

2.

$$\Gamma(t) = \exp \left[- \int_0^t \gamma(t') dt' \right]$$

として

$$\frac{d}{dt} \left(e^{\hat{A}(t)} \Gamma(t) \right) = \frac{d\hat{A}(t)}{dt} \left(e^{\hat{A}(t)} \Gamma(t) \right) \quad (3)$$

を示せ。

3. パラメータ t に依存する演算子 $\hat{B}(t)$ が $[\hat{B}(t), \hat{B}(t')]$ が c-数であるとき

$$\hat{U}(t) = \exp \left(\int_0^t \hat{B}(t') dt' - \frac{1}{2} \int_0^t dt' \int_0^{t'} dt'' [\hat{B}(t'), \hat{B}(t'')] \right) \quad (4)$$

が微分方程式

$$\frac{d}{dt} \hat{U}(t) = \hat{B}(t) \hat{U}(t) \quad (5)$$

を満たすことを示せ。

注:

$$\hat{B}(t) = -\frac{i}{\hbar} \mathcal{H}'_1(t) \quad (6)$$

と置くと講義で説明した微分方程式になる。

問題 IV - 03 「調和振動子のコヒーレント状態 I」

$$\hat{\mathcal{H}}_1'(t) = -\frac{\lambda\ell}{\sqrt{2}} (\hat{a}e^{-i\omega t} + \hat{a}^\dagger e^{i\omega t}) \quad (7)$$

$$-\frac{i}{\hbar} \int_0^t \hat{\mathcal{H}}_1'(t') dt' = \alpha(t)\hat{a}^\dagger - \alpha^*(t)\hat{a} \quad (8)$$

と書いたとき

$$\alpha(t) = \frac{\lambda\ell}{\sqrt{2}\hbar\omega} (e^{i\omega t} - 1) \quad (9)$$

を示せ。

問題 IV - 04 「調和振動子のコヒーレント状態 II」

$t = 0$ から $\hat{\mathcal{H}}_1'$ を調和振動子の基底状態 $|0\rangle$ にかけて続けた時、時刻 $t(\geq 0)$ における状態は $\alpha(t)e^{-i\omega t}$ のコヒーレント状態になる。複素平面上で $\alpha(t)e^{-i\omega t}$ を描け。また \hat{x}, \hat{p} の時刻 t の期待値を求め、図示せよ。